

# Aizu view point survey

～会津若松市の視点場発見と景観特性に関する研究～

a2200902 伊藤 優紀

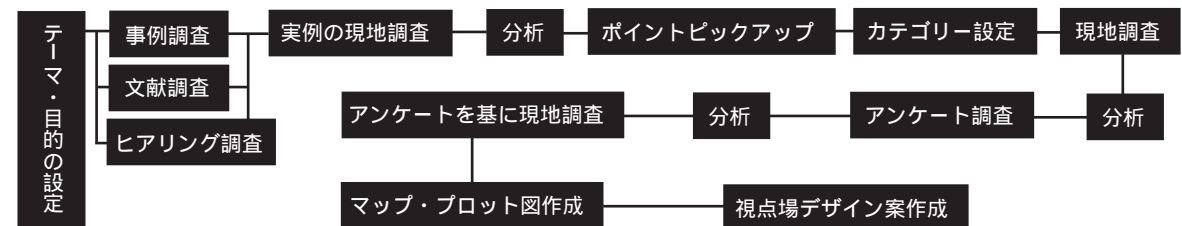
## 【研究概要】

近年、国内における景観整備の一つとして、対象（視対象）から見る場所（視点場）に焦点を当てて試みが行われるようになってきた。会津若松市では、この取り組みは始められたばかりであるが、この研究では近年注目されつつあるこの視点場について、会津若松市を対象として、視点場と視対象の発見・確立と整備の基礎となる研究を行う。会津若松市には深い歴史があるのと同時に、城下町であるという大きな特徴がある。これらの点からも、建物や自然、街並みなど、さまざまな分野の視対象と視点場の存在が考えられる。今後、それらの視対象・視点場を活かしていけるよう、研究する。

## 【研究目的】

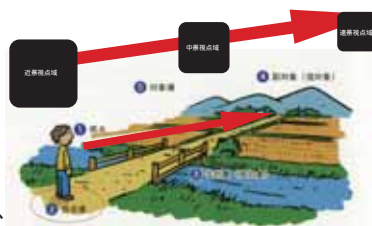
会津若松市には数多くの視対象（鶴ヶ城、東山温泉街、飯盛山、小田山、七日町、背あがり山等）が存在するが、視点場は未だ整備されていない。この会津若松市の視点場を発見・整理して、視点場と視対象の関係を考察し、視点場の在り方について研究する。視対象・視点場を見出し、世の中の人に視対象と視点場の存在意義について認識と理解をしてもらい、景色を眺める際や、写真撮影を行う際のひとつの参考としてもらえることを最終目標とし、成果物の具現化に向けて取り組んでいく。

## 【研究方法】



## 【基礎知識】

「遠景・中景・近景」について  
 そもそも、肉眼で対象物を見た時と、カメラのレンズを通して見た時とでは違いが生じるのでは？と思う方も多いと思われるが、それはその通りのことである。視距離は一般的には、視点から400mまでを「近景域」、400～2.5kmまでを「中景域」、2.5km以上を「遠景域」として設定されている。視点場を考える上では、対象の大きさによって、見えの大きさは異なることから、対象の規模に対する相対的な視距離を設定し、これを基に検討することとする。



「人間の眼・カメラのレンズ」について  
 人間の目は視野の外側に行くほど視力が低下する。そのため、絵画や写真を鑑賞するときは、おのずと全体が視力の高い部分に収まるようにして鑑賞しようとする。この視力の高い部分がほぼ視野角45度に一致する領域に分布している。したがって、写真等を鑑賞する場合は、おのずと鑑賞対象が視力の高い45度の視野角に収まるような距離で鑑賞することになる。カメラのレンズには「標準」「広角」「望遠」レンズがある。これらのレンズで風景を撮影すると、それぞれ雰囲気違った写真になり、広角レンズでは、遠近感が強調され、望遠レンズでは逆に、遠近感が失われたものとなるのに対し、「標準レンズ」の画像が肉眼で見たときに最も近い感じになる。

カテゴリについて  
 会津若松市内の対象物をただやみくもに選んで視対象と設定するわけにもいかないため、数ある対象物にメリハリを持たせる為、「カテゴリ設定」を行った。カテゴリ設定とはつまり、対象物の種類分けのことで、名称を定めて大まかに分類する。視点場として視対象を見た際に、季節によって異なる景色というものは確実に生じる。季節によって違った表情になるポイントに関しては、視点場として設定する際に、四季によって違う景色になるということも説明する必要がある。例を言えば、会津若松市内では有名な「石部桜」があるが、これは名の通り、春に桜が咲いた時が最も美しく、それ以外の季節はあまり視対象・視点場としては生きてこない。季節限定であるということも同時に認識してもらえるよう、慎重に設定していく必要がある。

## 【調査内容】

### アンケート調査の実施

さまざまな方法を考案して調査・研究を行ってきたが、それでも独自の調査だけでは限界があるということで、短大事務室の方々、大町の方々、会津若松市役所の方々にアンケートの協力を急遽依頼した。

- ・短大事務室 : 13人中7人回答
  - ・大町 : 10人中8人回答
  - ・会津若松市役所 : 166人中92人回答
- 合計 107人

市内に住む方から市外に住む方、出身当時から現在に至るまで、引っ越して来た方など、多種多様な条件ではあったものの、調査する上で貴重な情報となった。中には、若い頃の体験談を事細かに記入して下さった方もおり、当時の会津若松の様子や社会的背景を伺うことができ、大変ありがたかった。

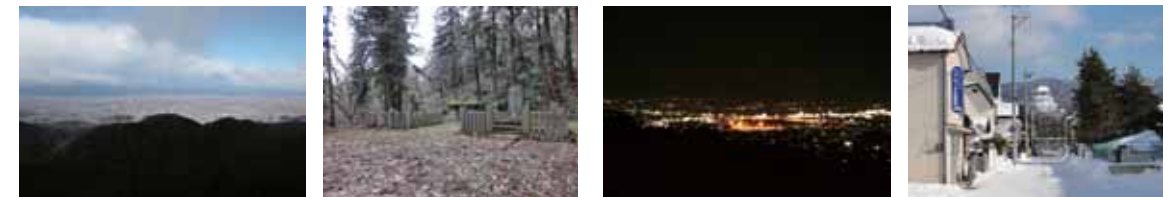
### アンケート調査結果の一部

- ・「背炙り山頂から望む会津若松市内」
  - ・「小田山から望む市内や鶴ヶ城」
  - ・「松長団地より望む市内、夜景」
- etc...

このアンケート調査を基に、住民の大多数の方が普段美しいと感じているポイントを整理して、実際に現地へ足を延ばし、調査を行った。尚、このアンケートは急な実施であった為、撮影作業を開始した頃には本格的な積雪が始まってしまい、連日の悪天候などにより、今日に至るまでに全ての撮影作業を終えることができなかった。大変悔やまれるが、来月の卒業展示までには全てのポイントの撮影作業を終えることを目標に、引き続き取り組んでいく。



アンケート用紙



## 【考察】

短い期間の中、会津若松市内の視対象・視点場を調査してきて分かったことは、『会津若松市内には視点場として成立するポイント、対象は多々あるが、それらをいかに「場所」として確立させるか』が、今後も課題であるということ。視点場としてもっと認知されてほしい、確立させたいと思う場所は確かに多かったが、実際問題これらの場所のほとんどが、「立ち位置」としては容易に設定することができない場所であった。具体的には、圧倒的に「道・道路」が多かったのだが、車道の真ん中を視点場として設定することは不可能であり、その道路付近でどうにか設定する他ない、という結論に至った。しかしながら、極力その道で見た時と相違ないように設定することが大きなポイントであり、今後も検討していくべき要素であるということも分かった。

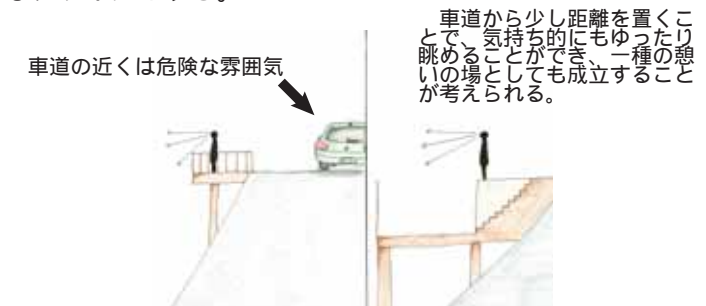
## 【提案】

最終成果物としてマップとプロット図の作成を掲げていたが、GPS機能付きのコンパクトデジタルカメラで、撮影してきた写真をグーグルマップにそのままプロットできるということになり、急遽その方法を活用。しかしその機能もまだ完璧ではなく、位置情報は表示されるものの、その場所の名称の表示などは出来ないということで、今後はそういった機能も対応したソフトの開発も進んでいくことを期待する。

視点場のデザイン提案は、一例として「背炙り山」を挙げる。車道の至近距離に立ち位置を設置するのではなく、車道から少々距離を置き、また、景色を眺望する際に余計なものが視界を遮らないよう、柵等は立った時に目線よりも下になるようなデザインとする。



ビューポイントマップ作成提案 (GPS マップ)



ビューポイント整備提案